

contents

思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング ・ピアエデュケーションの現状…………… 1	「ありのままのわたしを生きる」ために③…………… 7
北丸雄二のニューヨークレポート③…………… 6	今月のブックガイド…………… 8
	JASEインフォメーション…………… 9

思春期の性の健康を支える

ピアカウンセリング・ピアエデュケーションの現状

自治医科大学名誉教授

日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会代表 高村 寿子

はじめに

1974年から6年おきに実施されている青少年の性意識・性行動の実態調査最新版結果でとくに性交経験率の変化に焦点を当てると、①日常化（性的経験率の上昇）、②早期化（性的経験率の早期化）、③男女差の消滅（女子の性行動の活発化）のキーワードに集約することができる¹⁾。①②に及ぼす大きな影響力として、コミュニケーション能力の不足とメディアとくに携帯メールの影響、③から派生する問題に、性的被害とくに恋人からのDV被害と被害経験者の自尊感情とジェンダー意識への影響があると指摘している。

これまでの若者の性意識・性行動の2大問題の1つ、10代の人工妊娠中絶率は全国的に減少傾向に転じてはいるものの、さらなる地域格差や中絶を繰り返すリピーターの増加などの新たな問題も生じてきている²⁾。他方の性感染症罹患率も減少傾向を見せてはいるものの、性のカジュアル化現象と称される社会現象に何ら

かの対応策を講じない限り、歯止めをかけることは難を極める。

いずれにしてもこれらの問題への対策が、学校現場の性教育や地域での思春期保健対策及び健康教育の緊急課題となって久しい。そのためにこれまでに組み込まれてきた健康教育／性教育の目的・方法を見直し、効果的な健康教育が求められている。

本稿で紹介するのは、親でもなく、教師でもなく、思春期の人々にとって最も身近に信頼できる存在であり、同じ世代に生きる価値観を共感・共有する“仲間：ピア”というキーパーソンが、ピアカウンセリング【仲間相談活動】手法を用いて行う性の健康教育、すなわちピアエデュケーション【仲間教育】である。この手法は、思春期／青年期の人々の自己効力感と自尊感情に焦点を当て、主体的な行動変容を支えるために有効な方法である^{3) 4)}と国際的にも拡がりをみせている。

若者が最も安心して心を開くピアカウンセラーが、「わかるよ、そうだよね……」とまずは批判しないでその気持ちを受けとめ、「どうしたらいいか一緒に考

え、具体的な問題解決行動を自ら決めていく」ことを支える手法であり、健やか親子 21 の課題 1 「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進の質的転換を図る活動」として位置づけられている。

思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング・ピアエデュケーションの萌芽と全国展開

1) わが国における思春期ピアカウンセリング活動の萌芽

わが国における思春期ピアカウンセリング活動は、諸外国と違って自然発生的であった。栃木県にある自治医科大学看護短期大学の学生が、1年間を通じてゼミで“人間の性：セクシュアリティ”について学び、いつの間にかクラスメイトや上級生から、性に関するさまざまな不安や悩みなどの相談を受けていた。この学生たちの活動を垣間見て、諸外国で行われている思春期ピアカウンセリングの実践を勧めた。クラスメイトや上級生との相談活動を体験して手ごたえを感じていた学生たちは、積極的にその実践意欲を表明し、活動が開始された。

その活動が栃木県内で思春期の人々を支える民間団体のとちぎ思春期研究会で紹介され、そのネットワークと関連機関との連携で、平成 2 年 8 月に南河内町（現在の下野市）の中央公民館で、高校生を対象にわが国初のピアカウンセリング手法による性教育講座が実施された。その状況を視察した〇市健康課は、市内の 5 つの県立高校の生徒を対象に講座を実施した。これが地域保健行政におけるわが国初の思春期ピアカウンセリング事業の幕開けであった。その後県内の足利市、宇都宮市、栃木市等が、県保健所と連携して取り組み始めた。その動向が全国に拡がり、沖縄県、高知県、宮崎県、福島県で取り組み始め、それらの成果が健やか親子 21 の中に取り込まれるきっかけとなった。

2) 健やか親子を基軸とした全国展開とピアカウンセリングの理論構築

(1) 健やか親子を基軸とした全国展開

2000 年 12 月に厚生労働省は、21 世紀の母子保健の取り組みとして、2010 年までの目標値を設定し、関係者、

関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画「健やか親子 21」を提言し、具体的な課題として 4 本柱が設置された。その 4 本柱の筆頭に、「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」が掲げられた。思春期の性の問題解決のために、従来の方法からの質的転換を図ることが必須であり、その有効な方法として同世代の仲間による取組みと、効果的に展開するための関係機関の連携の有効性が強調された。

平成 22 年度 3 月現在までに、全国で 21 の県と東京にある 1 民間団体でピアカウンセラー養成が行われ、具体的な活動を展開している。これらの活動は、平成 14 年度から 3 年間実施された厚生労働科学研究「ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成と効果的普及に関する研究⁵⁾」および「性に関する思春期保健教育のためのマニュアルの開発と教材作成に関する研究⁶⁾」の成果で設立された日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会の支援システムによって活動している。

平成 22 年 3 月末で健やか親子 21 がスタートした平成 14 年度から全国でピアカウンセラーが 1700 名余、ピアカウンセラー養成者が 54 名、ピアカウンセリング・コーディネーターが 350 名余養成され、活躍している。この実績を踏まえ、平成 22 年 12 月 25 日に、日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会は、厚生労働省から健やか親子推進団体に認可された。詳細は日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会 (JPCA EA) のホームページ⁷⁾ を参照いただきたい。

(2) ピアカウンセリングの理論的・実践的根拠

現在日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会が全国展開しているピアカウンセリングの理論とスキルおよび展開例は、スタンフォード大学で展開されているピアカウンセリング・システムに準拠している。同大学では教育学部・心理学部のカリキュラムの 1 つに、ピアカウンセリングの講義と演習（ロールプレイによる演習中心）が編成されている⁸⁾。その科目を履修し単位認定された学生の有志が、ボランティアとして学内および近隣の地域の思春期の子どもたちに個別および集団にピアカウンセリングを実施している。また、その理論とスキルは大学の地域貢献活動として、高校生や HIV/HIDS 予防・サポート活動⁹⁾

等に活用されている。

しかし、そのまま日本に取り入れるにはあまりにも文化や風土、習慣になじまない部分もあったので、筆者らは国際医療協力研究委託を受けて平成9年10月から我が国の関連領域の専門職に3回の咀嚼セミナーと2回の普及セミナーを実施し、ここに紹介する形態に整理し、日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会のピアカウンセラー養成正式カリキュラムとして全国展開している^{10) 11) 12)}。

ピアカウンセリング手法による性の健康教育；ピアエデュケーションの実際

筆者が顧問をしている J-STARS-PEER（自治医科大学ピアサークル）が行っている中学校・高等学校における展開例を紹介する。

1) 中学校での展開例

ここ5年前から大学近隣の市もしくは中学校から直接依頼を受けて、中学生とくに2年生に焦点をあててピアエデュケーションを実施している。本稿では平成22年度に実施した中学校の内容・方法と受講した生徒たちの感想を紹介する。

(1) 目的

①これからの人生設計を描くことにより（写真1）、自分自身を見つめ直し、これまでのさまざまな出会いがあったことに気づき、自分の尊さや周囲の人たちの大切さを知るきっかけをつくる、②他の人の意見を受け入れ、自分自身のみちを決めていくことの大切さを知る（写真2）ことができるとした。

写真1 人生設計（ライフライン）の紹介



写真2 仲間の人生設計をわかちあう

(2) 内容・方法

O市K中学校の実施概要と受講した生徒及び教師の感想を紹介する。2学年4クラスの1クラスごとに5名のピアカウンセラーが担当、終了後ピアエデュケーションを行ったクラスごとに給食を一緒にとり親睦を深めた。

(3) 受講した生徒と寄り添っていた教師の感想から抜粋

①生徒の感想抜粋

「自分がどう思われているのか、自分の過去、未来を真剣に見つめ直すことが改めてできたのでよかった」「心があたたかくなってとても楽しい時間でした」「大変なこともあるけど、こういう時間があると、それを忘れて心が楽しい思いでいっぱいになった」「皆、誰もが思っていることは一緒じゃない、これからの未来、いろいろなことを考えさせられた」「人を好きになるって恥ずかしいって考えていたけど、自然なことなんだと感じた」「今、自分を支えてくれている友達、家族、カレシにありがとうって伝えたいです」「人にはそれぞれの人生があって、その中にある辛いことや楽しいこと、いろいろなことすべてが自分の生き方なんだ、そして人生を歩むにはたくさんの支えがあったからなのだと改めて感じた」と、目的に掲げた自分自身を見つめ直すこと、これまでのさまざまな出会いがあったことへの気づき、自尊感情や周囲の人たちの大切さを知り、他の人の意見を受け入れ、自分自身のみちを決めていくことの大切さを感じとってくれたことがわかる。

②学校（教師）の感想抜粋

講義をしてくれたピアカウンセラーが生徒たちと年も近く、職員でもないということで素直に話ができたり、恥ずかしいという気持ちをあまりもたずに受講できたようだ。（中略）子どもたちの感想からも自分を大切にすることや周囲の人たちへの感謝の気持ちをもつことが大切であるということをしっかり学ぶことができたようだ。学校としては子どもたちが「生」について考えるよいきっかけをいただいたので、それを今後の授業や学校生活、さらには将来にも生かせるように支援していきたいと好意的に受け止め、受講後のフォローが期待される。

2) K高校での展開例

我が国で展開されている思春期の性を支えるピアカ

ウンセリングの特徴は、たとえ集団教育であろうと1人1人にエンカウンターによる人生設計(ライフライン)を描いてもらうことを必要十分条件として取り組んでいることである。もちろん学校側のニーズと照らし合わせて、ピアカウンセラーたちが伝えたいテーマを選択し組み立てている。

(1) 目的

性的被害とくに恋人からのDV被害と被害経験者の自尊感情について身近に捉え、問題意識を高めることである。

(2) 内容・方法

1学年全員184名に体育館で行った。

(3) 生徒の感想の抜粋

なかには「普通だった、ただがんばる場所が変わるだけ、不幸だ一、楽しかったけど疲れた」などと書いている生徒もクラスに1、2人いた。が、ほとんどの生徒は、以下に示すような感想を記述しており、なにがしかの意識の変容をもたらしたことがうかがわれる。

「大学生のピアカウンセラーがきらきら輝いていた、笑顔がよかった、普段は考えない大切なことを考える授業だった」とまずは好意的に受け止めていた。

自分を知ることやライフラインについては、「ピアカウンセラーも混じって、グループをつくり、自分のイメージをグループメンバーから色に例えてもらい、その理由を伝えられることで自己理解を深めるエンカウンター(色いろいろ)をやって、自分を見つめ、他の人から見つめてもらって知らなかった自分を発見できて面白かった。そして、ピアカウンセラーが自分の人生設計を語ってくれた。それを聞いて、自分たちも人生設計を書く用紙に向かって真剣に書いた。こんなに時間をかけて人生を考えたことはなかった。それをグループの皆に話して、皆のも聞いて楽しかったし、いろいろな人生を考えていることがわかった」「僕にとって人生を振り返ることのできる大きな大きな出来事になった。これからしっかり振り返って自分らしく生きれるよう自分磨きをがんばります」

デートDVに関しては、「劇がけっこう本当っぽく再現できていた。気づいていなかったDVを知れてよかった」「いけないことだと思う。でも、そうでもしなきゃ『愛情』の表現ができない人もいるから難しい」「考える機会になった。こわい、男が女に手を出すのは最悪、胸が痛い、何でかな?」「絶対にしてはいけないこ

とだと思う。心に響いた」

そして最後の大切なものでは、「人は一人では生きていけないので、今の友達を大切にしたいと思った」「今日改めて友達や家族、今まで関わってきた人たちにありがとうと思った」「自分のことや自分の大切なもの、大切な人が改めてわかった」と受け止め、全体を通して、「すごい心が成長した気がする。色いろいろはいろいろな人に赤って言われて自分でもびっくりした。デートDV見てて気づけなかったことに気づいたし、面白かった。DVする男はいややー」「今日の体験を通して改めて人との通じ合いはすばらしいものだと思った。いろいろなことを知ることができた。まだ、自分とは何かわからないけど、今日この時間で何となくわかりかけた気がした」というような考えに要約された。

紙面の関係上詳細には述べることができないが、いろいろな側面をもつ自分を知り、ライフラインを通して将来を考え、身近に起こりうるデートDVを考え、最後にはこの世にただ1人の自分を大切に、そして自分と同じように人生の夢や希望をもっている周りの人を大切にすることに気づいていることがわかる。ピアカウンセラーたちは一貫して、トレーニングされているピアカウンセリングスキルを駆使しながら、生徒たちの自己効力感に働きかけ、その結果自尊感情が回復・強化され、それぞれの人生設計を実現していくための自己決定能力を発揮していくように働きかけていた。

おわりに

本手法の評価のために実施し、受講前後の確認が取れた調査結果から、受講前後で好ましい方向に有意に変化した項目を紹介する¹³⁾。表1のように自分自身のことをよく理解できたか、自分のことをありのまま表現できるか、異性と付き合うのは相手のことをよく知ってからか、セックスは特定の人とするもの、表2のように性交時にコンドームを必ず使う自信があるか、性交時にコンドームを正しく使う自信があるか、が変化した。

また、表3のように一般性自己効力感尺度、自尊感情尺度は男女とも上昇する傾向が伺われ、とくに低い者に有意であった。講座の受講は、短期的ではあるが性に関する知識の習得、そして意識と行動への変容に好影響を及ぼす可能性を示していると評価されている。

思春期/青年期の人々の自己効力感と自尊感情に焦

表1 受講前後の認識の比較 (%)

	受講前	受講 3か月後
自分自身のことをよく理解している***	51.3	71.4
考えていることをありのままに表現できる*	34.6	46.8
自分の性に生まれてきてよかった	62.8	70.1
異性と付き合うのは相手のことをよく知ってから*	83.3	89.6
セックスは特定の人とするもの**	83.1	90.8
友達が経験していたら自分も早く経験したい	16.9	13.0
セックスを求められた時、自分の気持ちを伝える自信	70.1	80.5

* : P<0.05 ** : P<0.01 *** : P<0.001

表2 初めてセックスをしようとする時仮定したとき (%)

	受講前	受講3か月後	
性感染症を考える	70.1	80.5	
妊娠を考える	87.0	92.2	
コンドームを必ず使う 自信がある	68.8	88.3	$\chi^2 = 8.678$ $p < 0.01$
コンドームを正しく使う 自信がある	32.1	57.1	$\chi^2 = 9.877$ $p < 0.01$

表3 効力感と自尊感情の比較 (Mean ± S.D)

	受講前	受講後	Mann-Whitney 検定
自己効力感 (n=77)	5.8 ± 3.5	6.9 ± 3.7	P < 0.001
6未満 (n=38)	2.9 ± 1.6	4.5 ± 3.0	P < 0.001
6以上 (n=39)	8.6 ± 2.2	9.2 ± 2.8	
自尊感情 (n=76)	22.3 ± 4.8	23.2 ± 5.4	
22未満 (n=38)	18.4 ± 2.4	20.6 ± 5.4	P < 0.05
22以上 (n=38)	26.2 ± 3.0	25.9 ± 4.2	

点を当て、主体的な行動変容を支える健康教育手法としての思春期ピアカウンセリングの意義とその実際および評価の一端を紹介した。まだまだ精査を積み重ねなければならない点は多々あるものの、思春期の若者同士が主体的に自分たちの性と健康を守り育てていく本手法が、今後ますます発展していくことを切望しつつ、2010年度全国で養成されたピアカウンセラー養成県と人数を表4で紹介し稿を閉じる

最後に拙論に興味をもたれてさらに深く知りたいたいとお考えの場合は、末尾関連図書および日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会または日本家族計画協会のホームページ¹⁴⁾の閲覧をお奨めする。

【文献】

- 1) 日本性教育協会：「若者の性」白書—第6回青少年の性行動全国調査報告、小学館、2007
- 2) 高村寿子：人工妊娠中絶を繰り返す思春期女子への再発予防方策と環境整備のあり方に関する研究、平成19年度児童

表4 平成22年度思春期ピアカウンセラー養成数

No.	実施自治体	男	女	合計
1	北海道	2	10	12
2	青森県	0	7	7
3	秋田県	0	14	14
4	岩手県	0	48	48
5	山形県	2	6	8
6	福島県	4	24	28
7	栃木県	2	39	41
8	群馬県	4	36	40
9	埼玉県	0	5	5
10	長野県	0	28	28
11	静岡県	0	0	0
12	奈良県	1	7	8
13	兵庫県	5	19	24
14	鳥取県	2	14	16
15	岡山県	2	4	6
16	香川県	1	28	29
17	徳島県	2	5	7
18	福岡県	0	0	0
19	宮崎県	0	10	10
20	熊本県	1	11	12
21	鹿児島県	0	10	10
22	U-COM	2	6	8
合計		30	331	361

*静岡県、福岡県は、平成22年度養成未実施。

- 関連サービス調査研究事業報告書、子ども未来財団、2008
- 3) WHO 思春期専門委員会編：思春期の人々のヘルスニーズ、WHO、1977
 - 4) WHO : Approachs to Adolescent Health and Development : prince for success, WHO/ADH 1992
 - 5) 高村寿子編著：ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成と効果の普及に関する研究、平成14・15年度厚生労働科学研究報告書、2004
 - 6) 高村寿子編著：性に関する思春期保健教育のためのマニュアルの開発と教材作成に関する研究、平成16年度厚生労働科学研究報告書、2005
 - 7) 日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会ホームページ <http://www.jpcaea.net>
 - 8) Vincent, J. D., Andrea, Peter Salovey : Peer Counseling ~Skills, Ethics and Perspectives (Second Edition), Science and Behavior Books, Inc, 1996
 - 9) API Wellness Center : Peer Counseling-Learning Basic Skill, 1999
 - 10) 高村寿子、鬼塚直樹 : Peer Counseling の手法を用いた HIV/AIDS 教育の普及に関する研究、(9指4) HIV 感染の予防と感染者支援の国際協力に関する研究班報告書、1999
 - 11) 高村寿子編著：思春期の性を支えるピアカウンセリング・マニュアル (ピアカウンセラー学生版)、小学館、2005
 - 12) 高村寿子編著：思春期の性を支えるピアカウンセリング・マニュアル (ピアカウンセラー養成者・コーディネータ (調整役) 版)、小学館、2005
 - 13) 前田ひとみ：高校生を対象とした大学生ピアカウンセラーによる思春期ピアカウンセリング講座の評価、第68回日本公衆衛生学会抄録、奈良 2009
 - 14) 日本家族計画協会のホームページ <http://www.jfpa.or.jp>

6月はLGBTプライド月間

オバマ大統領が6月をLGBTのプライド月間であると宣言しました。今月を、アメリカ合衆国で性的少数者たちが誇りをもって生きていけるようにするための月にしようという政治宣言です。

これは今年に始まったわけではなく、クリントン大統領が1999年の6月をそう宣言したのが最初です。以降、共和党のブッシュ政権は同性愛をタブーとする宗教保守派を支持基盤にしていることもあって宣言しませんでした。オバマ政権になった2009年から再び復活しました。

どうして6月かという、今月は現代ゲイ人権運動の嚆矢と言われる「ストーンウォール・インの暴動」が起きた月だからです。1969年6月28日未明、警察の度重なる理不尽な摘発にとうとう爆発したLGBTの客たちが、ニューヨークのゲイバー「ストーンウォール・イン」とその周辺で3夜にわたって警官隊と衝突した事件です。1969年とは、日本では「黒猫のタンゴ」が鳴り響き東大では安田講堂が燃え、ここ米国ではニクソンが大統領になりウッドストックが開かれ、空の上ではアポロ11号が月に到着した年です。

このストーンウォール蜂起を機に、それまで全米でわずか50ほどしかなかったゲイの人権団体が1年半で200団体にも増えました。1973年末までには、大学や教会や市単位などで1100以上のゲイ団体が立ち上がりました。こうして70年代、ゲイたちに政治の季節が訪れたのです。1972年の民主党の党大会では同性愛者の人権問題が初めて議論に上りました。米史上最も尊敬されているジャーナリストの1人である故ウォルター・クロンカイトは、当時の自分のニュース番組で「同性愛に関する政治綱領が今夜初めて真剣な議論になりました。これは今後来たるべきものの重要な先駆けになるかもしれません」と見抜きました。

日本のジャーナリズムで、同性愛のことを（性同一

性障害ではなく）社会の平等と人権の問題だと認識している人は、クロンカイトから40年経った現在ですらそう多くはありません。政治家も同じようなものでしょう。もっとも、今春の日本の統一地方選では東京・中野区と豊島区の区議選でゲイであることをオープンにしている候補が当選しました。日本の選挙史上初めてのことです。

今年のオバマのプライド宣言は次のように始まりです。「アメリカのレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの人々の物語は、私たちのこの国をより完璧な連合体にしようとして働きつづける私たちの父親と息子、母親と娘、私たちの友人と隣人たちの物語です。すべての人々が、法の下での尊厳と公平を手にながら生きられるという、偉大なアメリカの約束を実現するための苦闘の物語なのです」

その上で大統領は、憎悪犯罪の摘発法の強化やゲイのカップルが養子をとる権利、職場での差別禁止法、現行のゲイの従軍禁止政策の撤廃を含め、LGBTのアメリカ人にすべての平等な権利をもたらす法案を支持すると誓約しました。「それはLGBTだけの問題ではなくアメリカ建国の精神の問題であり、結果、すべてのアメリカ人が利益を受ける問題なのだ」とオバマは続けています。つまりこれを裏読みすれば、LGBTの人々は今もなお、それだけ法的な不平等を受けているということなのです。

LGBTの人たちはべつに闇の世界の住人でも地下生活者でもありません。ある人は警官であり消防士でありサラリーマンであり教師であり公務員であり弁護士だったり医者だったりもします。きちんと税金を払い、法律を守って生きている。なのに自分のパートナーを守る法律がない、差別されたときに自分を守る法律がない。

人権問題がすぐれて政治的な問題になるのは当然の帰着です。だからこそ大統領宣言もが行われる。欧米の人権先進国では、まさに政治が動き出しているのです。

きたまるゆうじ ニューヨーク在住（18年）ジャーナリスト／作家／元・中日新聞（東京新聞）ニューヨーク支局長。

「ありのままのわたしを生きる」ために



第3回

心のなかの小さな箱

土肥いつき

京都の公立高校教員。24時間一人パレード状態のMtFトランスジェンダー。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

今年の5月は暑くなったり寒くなったり、めまぐるしく気候が変わった気がします。それでも6月には衣替えのニュースがテレビや新聞を賑わすことでしょう。ところでこの衣替えのニュースを見るたびに、わたしは妙な違和感を覚えます。それは、現在の衣替えは、制服という存在と不可分だと思うからです。

制服は単なる衣服ではなく記号であると、わたしは常々思っています。制服には季節や所属、さらにはジェンダーといった意味が付与されます。自分で自分をあらわす工夫をしなくてもいいという意味では、たしかに制服は楽ではあるかもしれませんが、でも、やっぱりわたしは「与えられた記号」に依拠した人生は歩きたくないなあと、衣替えの季節がくるたびに思います。

閑話休題。

小学校の中学年の頃に気づいた秘密。そのひとつは「女性の服を着たい」というものでした。でも、さすがに「女装かぁ」と、我ながら思いました。問題は、うちの家族構成でした。父親、母親、わたし、弟。つまり、家の中にある女性の服は母親の服だけです。姉がいればよかったのですが…。さすがに小学生のわたしにとって、年代が全然違う母親の服は着たいとは思いませんでした。また、母親の服に手をつけることへの罪悪感もありました。かと言って、「スカートを買ってほしい」のひとはどうしても言えませんでした。でも、「女性の服を着たい」という思いをおさえることはできません。そこで、ベストやバスタオルをスカートにみたてて腰に巻いてみたりして、「女性の服を着たい」という思いを満足させていました。

もうひとつ秘密がありました。それは、「女性の身体に興味がある」ということでした。当時は1970年代初頭です。当時の小学生にとって性情報はまだまだ身近なものではなく、友だち同士の会話でも、そんな話題が出てくることはありませんでした。さらに前回も書いたように、わたしは教会学校に通っていました。教会の中では性について語られることはありませんでした。性に無縁な世界にいたわたしは、知らず知

らずのうちに、性に関心をもつ自分に罪悪感を覚えるようになりました。

なぜ女性の身体に興味があったかという、「女性の身体ってどうなっているのかな?」「その女性の身体のパーツを自分の身体につけたい」と思っていたのです。でも、「おっぱいがほしい」と親に言えるかという、これは無理です。弟に言えるかという、これも言えません。友だちに言えるかという、これはかなり危なそうです。先生に言えるかという、これは論外です。近所の人に言えるかという、言ってもしかたがありません。親、兄弟、友だち、先生、近所の人、おそらく現在の小学生にとっても、リアルな世界はこの五者ではないかと思えます。逆に言うなら、この五者に言えないということは、世界の誰にも言えないということです。わたしは隠そうと思いました。

隠すのはとても簡単でした。心のなかに小さな箱をつくり、その中に「女性の服を着たい」「女性の身体に興味がある」「女性の身体のパーツを自分の身体につけたい」といった思いをポイポイポイと放り込んで、パタンとフタをします。そして、心の中に少し沈めます。そうすると、すごく簡単に隠せました。隠しごとがあつてしんどかったかという、まったくしんどくありませんでした。なぜなら、箱があるのがわたしにとっては当たり前。当たり前のことはしんどいとは認識しません。しんどいと認識しないことは、しんどいとは感じません。しかもこの箱は24時間365日ずっとあります。ずっとあると、あることに慣れます。慣れると、箱の存在を忘れます。もちろん箱のことを思い出す時がないことはないのですが、それは自分ひとりである時のことです。そんな時は、ほんの少しだけ罪悪感を覚えます。でも、みんなという時は箱の存在は忘れていきます。忘れてしまえば、わたしはごく普通の小学生でした。

ところで、小学校時代は、後のわたしのものの考え方に影響を与えたたくさんの方と出会った時もありました。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

翻訳不能な愛

先日、知り合った男子学生がこんなことを言っていた。「この前、男同士で飲んでいたときに、なんとなくそんな雰囲気になって、友達とエッチしちゃったんですよね。両性愛者ってほどのことはないんですが、男もまったく駄目じゃないって思いました」

とくに自分が性的少数者であることを受け入れられないために、そのように語っているようにも見えなかったので、彼の場合、基本は異性愛で、ときに同性への淡い欲求が生じるのだろう。そんな彼のセクシュアリティをなんと名づけたらよいのか。

このように、現在用いられている「性」の用語では上手く現実を掬い取れないことも少なくない。そもそも「性」という領域そのものが、近代に入ってからのものである。同性愛に対して異性愛や両性愛、セックスとプラトニックラブ、恋愛と友情……といった単純な仕分けだと、その「あわい」にある何か大切なものが抜け落ちてしまうように思われるのだ。

一方、近代以前の日本社会には、その「あわい」を留保するような文化があった。もちろん、分類されることによって拓かれることもあるから、西洋から輸入した思考方法が間違っているというのではない。けれども、大塚ひかり著『快樂でよみとく古典文学』を読むと、過去には、整理されないからこそその性愛の豊穡さがあったことも想像される。

この本は、「現代語訳にするとその味わいが泡のように消えそうでいながら（略）性愛そのものであるような『ことば』を手がかりに」、古典を読み解こうとするものである。著者はこれまでも「性」にこだわった視点から古典文学についての評論を著し、近年では『源氏物語』の現代語訳を完成させている。ここでは、くだけた文章で、現代を生きる私たちが忘れてしまった、

快樂でよみとく
古典文学



快樂でよみとく 古典文学

大塚ひかり著
小学館 101 新書
735 円

かつて日本にあった「性」の面白さを解説してくれる。

例えば、「女にて見む」という言葉がある。『源氏物語』（紅葉賀）で、光源氏は兵部卿宮に対して「女にて見むはをかしかりぬべく、人知れず見たてまつりたまふ」と思い、兵部卿宮も光源氏に「女にて見ばや、と色めきたる御心には思ほす」と色めいた。それぞれ「この宮を女にしてつきあったら面白いだろう」「源氏の君を女にしてつきあってみたい」という意味だ。

この「女にて見む」は、女性にモテる男に対して使われる言葉で、相手を女にしてセックスしたらどんなにいいか、という欲望があるのだという。それと、現在の同性愛と同一視するのは違って、「こいつは俺にとって同性だけど、同性として会うには惜しい奴だ」というような願いがそこにある。しかし、そこには同性愛とも異性愛とも分かちがたい、翻訳不能な微妙な愛が漂っているのだと、大塚は指摘する。

その時代の感性は、その時代を生きなければ共有できないものだと想像されるが、そこに翻訳の難しさがあるのだろう。そして、本来、個々人のなかにある欲望は他人に翻訳不能な面が必ずあるはずで、それを捨象することで、私たちは「性」を理解した気になっているのである。もしかしたら、その部分にこそ「性」の豊かな姿があるかもしれないのに。

しかし私たち現代の日本人も、そうした過去の遺伝子をまったく失ってしまったのではない、と思えることもある。例えば、日本で同性愛者の解放運動が欧米諸国のような規模にならないのは、人権意識が低いことばかりが原因ではないかもしれない。もしかしたら、「性」の「あわい」を大切に感じる感覚が底流にあるからこそ、「性」がわかりやすいアイデンティティにはならないから、ともいえないか。

ともあれ、いにしえの言葉を味わうことによっていまが相対化される、という意味でも、古典はもっと読まれるべきかもしれない。（評論家 伏見憲明）

NPO 法人レジリエンス&エセナ5共催

▶▶ 7月2日(土) 13:00~16:00 ◀◀

つながる 話す とともに歩む ～性暴力をなくすために一人ひとりができること～

内容 語り／小林美佳：『性犯罪被害にあうということ』『性犯罪被害とたたかうということ』著者、大藪順子：フォトジャーナリスト、著書に『STAND 立ち上がる選択』、中島幸子：DV コンサルタント、『マイ・レジリエンス』出版予定。

会場 一橋記念講堂（東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センタービル2F）

定員・参加費・問い合わせ

参加費／3,000円。定員／350名。問合せ先／NPO 法人レジリエンス E-mail event72@resilience.jp FAX 03-3408-4616

7/9(土)

10:00~18:30

7/10(日)

10:00~17:30

DV・性暴力・子ども虐待の被害にかかわる支援者のための研修講座 2011

内容 **Aコース9日**「医療機関からみた子ども虐待」奥山眞紀子（（独）国立成育医療研究センター）、「ワーク：自分の中の差別感」朴和美（翻訳家）、「セクシュアル・ハラスメントとキャンパス・ハラスメント」丹羽雅代（女性相談員）、「女性への暴力と社会構造①」角田由紀子（弁護士）、ほか。**10日**「女性のからだと健康」佐々木静子（産婦人科医）・家吉望み（SANE）、「役立つ記録の取り方」池田ひかり（相談員）、「女性のからだと性をめぐる女性の自己決定権—リプロダクティブ・ライツ①」三輪和恵（保健師）、「当事者支援者として伝えること」福井和恵（社会福祉士）、ほか。**Bコース9日**「性暴力被害にどう取り組むか」丹羽雅代、「子どもへの性的虐待：聴き取りの原則」奥山眞紀子、「感情労働としての支援の仕事」小宮敬子（保健師）、「外国人被害女性への支援」山岸素子（カラカサン）、ほか。**10日**「災害と女性への暴力」正井礼子（NPO 法人ウィメンズネットこうべ）、「被害女性の支援・エンパワメントとコミュニケーション」高山直子（NPO 法人じよむ）、「ワーク：スーパービジョンを体験する」小西聖子（精神科医）、ほか。**SANE コース9日**「SANE とは—役割と課題」三隅順子（助産師）、「被害者の理解：社会編」土井真知（研究者）、「感情労働としての支援の仕事」小宮敬子、「女性への暴力と社会構造①」角田由紀子、ほか。**10日**「医療における問題意識の共有」三隅順子、「ワーク：差別の感覚」丹羽雅代、「医療者が知っておくべき支援の原則」小西聖子、「組織としての支援態勢づくりの実際」北田衣代（産婦人科医）、「DV 相談機関の活用」池田ひかり、ほか。

会場 明治乳業本社（東京・江東区、地下鉄東陽町駅）全館禁煙

問い合わせ先等 参加費／一般：A Bコース全期 60,000円、各期 30,000円、スポット参加1コマ 6,000円、SANE コース 60,000円。会員：A Bコース全期 50,000円、各期 20,000円、スポット参加1コマ 6,000円、SANE コース 50,000円。問合せ先／NPO 法人女性の安全と健康のための支援教育センター 〒113-0033 東京都文京区本郷1-25-4 ベルスクエア本郷7階 FAX 03-5684-1412 E-mail shienkyo@vega.ocn.ne.jp

7/28(木)

10:00~16:30

7/30(土)

10:00~16:30

第6回援助職のための研修

「学校における性暴力の被害と加害

～発見・対応・問われるその後～

講師 7/28(木) 楠本裕紀（阪南中央病院産婦人科）、7/29(金) 峯本耕治（弁護士）、7/30(土) 藤岡淳子（大阪大学大学院人間科学研究科）、ほか。

会場 大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）4階 大会議室1

問い合わせ先等 定員／60名（申込順に先着）。問合せ先／ウィメンズセンター大阪事務局 TEL 06-6632-7011 FAX 06-6632-7012 E-mail wco@wco-net.jp URL http://homepage3.nifty.com/wco/

▶▶ 7月29日(金)~31日(日) ◀◀

ハートブレイク 2011年度宿泊学習会 ベーシックコース

場所 兵庫県篠山市ハートブレイクセミナーハウス

内容 ①「もっと知ろうよ性的こと」[電話・Eメール・面談] 相談の実態・性の常識・伝説・思い込みあれこれから見えてくるものは…、ほか。②「そこが知りたい性的こと」セーフターセックスとは何か、誰のためにするかを体験学習していく、ほか。

問い合わせ

参加費／30,000円（2泊3日の宿泊費・食事代含む）。

定員／10名。問合せ先／ハートブレイク

〒564-0001 吹田市岸部北3-29-11 大阪事務所

FAX 06-7504-6490 E-mail heart-sasayama@nike.eonet.ne.jp

8 / 7 (日)

12:00~17:30

性教育研究会研修会 発達障害児・知的障害児への性教育と男児の性被害

【内 容】第1部：講演「発達障害児と知的障害児に対する性教育実践」菊池春樹（神経科クリニックこどもの園）。第2部：講演「性被害に遭遇した男性の精神医学的特徴について」松本俊彦（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部診断治療開発研究室長）。

【会 場】国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 310 号室

【問い合わせ先】参加費／一般 3,000 円、学生 2,000 円。問合せ先／千葉県千葉市中央区蘇我 1-4-9-105 石澤方英方 性教育研究会
TEL 090-1429-6958 E-mail m.ishzw4@pref.chiba.lg.jp URL <http://seikyouiku.fc2.rentalserver.com/>

全国性教育研究団体連絡協議会

8月18日 (木) 12:30 ~ 16:30

8月19日 (金) 9:00 ~ 16:30

第41回 全国性教育研究大会

テーマ 「生きる力」を育む性教育を目指して～学校における実践を効果的に進めるために～

内 容 1日目：開催地報告「北海道性教育研究会の歩みと実践」北海道性教育研究会、基調講演「学校における性に関する指導について」森良一（文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課）、記念講演「学校に望まれる健康教育の視点」南砂（読売新聞東京本社）、ほか。

2日目：分科会「小学校低学年における性教育の実践」「小学校高学年における性教育の実践」「中学校における性教育の実践（第2学年）」「中学校における性教育の実践（第2・3学年）」「高等学校における性教育の実践と性意識調査」、課題別講義「性教育の導入と実践の計画」堀内比佐子（全国性教育研究団体連絡協議会）、「性教育における関係機関との連携」三浦康男（全国性教育研究団体連絡協議会）、「情報メディアによる性非行・性犯罪の危険」大和剛彦（市立札幌大通高等学校）、「保健所が行う性教育（学校との連携）」西田令子（手稲保健センター）、「医者が行う性教育（学校との連携）」鈴木伸和（札幌市医師会）、実践発表「日本の妊娠・不妊に関する知識レベルについて」杉本美麗（メルクセローノ（株）コーポレート・コミュニケーション）、「ハイリスク HPV の性行為感染知見によって提起された学校性教育の新課題と指導法」武田敏（千葉大学）、ほか。

会 場 ホテルライフォート札幌（札幌市中央区南 10 条西 1 丁目）

定員・参加費・問い合わせ

参加費／一般 6,000 円、学生 4,000 円、1日参加 3,000 円（学生 2,000 円）。定員／500 名、分科会は定員各 100 名。

主 催／全国性教育研究団体連絡協議会、北海道性教育研究会。

協 賛／（財）日本性教育協会。

後 援／内閣府、文部科学省、厚生労働省、全国公立幼稚園長会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全国特別支援学校長会、（社）日本 PTA 全国協議会、（社）全国高等学校 PTA 連合会、（財）日本学校保健会、（社）日本家族計画協会、（社）日本産婦人科医会、（社）日本看護協会、北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道医師会、札幌市医師会、北海道学校保健会、札幌市学校保健会、札幌市看護協会（一部申請中）

問合せ先／〒064-0921 札幌市中央区南 21 条西 5 丁目 札幌市立柏中学校内 札幌大会事務局

TEL 011-521-2341 FAX 011-521-2343